



3月の園だより

令和8年3月2日
目黒区立中町保育園 園長

5歳児クラスの子どもたちが、地域の私立園とともに近隣の小学校に行き、一年生と交流する機会がありました。ランドセルを背負う、タブレット操作が出来る、コマ回し、折り紙、塗り絵、あやとり等、各教室に様々なコーナーが設けられる中で、けん玉を披露する一年生がいました。興味を示した5歳児が「教えて」と声を掛けると持ち方から教えてくれます。「指で“OK”の形を作って、そのまま下向きにするんだよ。指はここと、ここ」「膝を曲げる、すぐ伸ばす！」と熱血指導は具体的だったり時に大雑把だったりします。それでも、一年生の言葉を全身で受け止め、集中して取り組んだ結果、数分後には中皿（長い持ち手の皿）に玉を乗せられるようになったことに、とても驚かされました。教える側、教わる側というよりも“一緒にけん玉を楽しみたい”と思う子ども同士によって作られた柔らかな時間の流れと空間が存在していたように見えました。

進級を間近に控え、保育園中に一つ大きくなることへの喜びが溢れています。今月の園だよりでは、担任による今年度のクラスを象徴する漢字一文字を載せています。保育士との間で築いた信頼関係を基盤に、常に新しいことを求めながら安心⇄挑戦を繰り返してきた子どもたちの成長は保育園の原動力でもあります。そんな中町保育園の子どもたちを象徴する一文字は、“たくましい”の**逞**で表したいと思います。ランドセルに心躍らせる5歳児のように、一人ひとりが伸びていく力を携えて、新しいクラスへと歩みを進める日はもうすぐです。

卒園式（5歳児）

お別れ遠足（3・4・5歳児）

お別れ散歩（5歳児）

移動日

お別れ会（年間計画から変更になっています）

中旬 身体計測 避難訓練



キラ 太陽 キラ

おひさま組のエピソード集



新年に入ってから1階の探索をしていると、おひさま組からお年玉をもらいました。小さな折り紙の袋に小さなお札が2枚入っていました。「どうぞ」と渡されると「ありがとう」と言うように腕を振り回して気持ちを表し、とても微笑ましいやり取りでした。

（0歳児・もも組）

おひさま組と一緒にトウモロコシの皮むきをしました。始めのうちは様子を見ていた子どもたちも「一緒にやろう」とむき方を教わり、皮がむけると「すごいね」と優しく声をかけてくれました。そのおかげでトウモロコシは子どもたちにとって特別なものとなり、給食に出ると「にいとむいたんだ」と誇らしげに食べていました。

（1歳児・たんぽぽ組）



いつもより距離のある公園まで散歩に行った日は疲れてお昼寝からなかなか起きられずにいました。そんな時、コットを片付けに来たおひさま組が「もう起きて」「目を開けて」と優しい声掛けとともに、根気強く待ちながら起こしてくれました。

（3歳児・ほし組）

運動会では、おひさま組のリレーを真剣な表情で見入っていました。数日後「やってみたい」と子どもたちは一人ひとつバトンを握り、リレーごっこを再現しています。夢中になってトラックを何周も走る子がいたり、バトンをつなごうとする仕草も見られたりしました。子どもたちにとっておひさま組は格好よく、憧れの存在です。（2歳児・ちゅうりっぷ組）

一緒に碑文谷公園に行った日、ポニー教室のことを詳しく教わりました。「お・ひ・さ・ま組になるとポニーに乗れるんだよ」「おひさま組になると人参をあげられるよ」とおひさま組にしか出来ないことをたくさん教えてもらい、間もなくやって来る進級への期待を膨らませていました。

（4歳児・つき組）

わいわいワード

今年度のクラスを表す漢字一文字は…

初

もも組(0歳児)

子どもたちには保育園生活の一年間でたくさんの“初”がありました。その一つひとつに初々しい反応や表情を見せ、その度に保育士も一緒に驚き、喜び、笑顔になりました。先日、初めて新聞紙遊びをすると、そっと触れてみたり、握ってみたり、慣れてくると引っ張ってちぎったりしていました。感触を確かめてから遊びだす姿を見ていると、経験を通して様々なことを学び、身につけていることが感じられました。見るもの、触れることへの喜びを一緒に感じながら、新しい世界への期待を膨らませていきます。



我

たんぼぼ組(1歳児)

着脱時に「これじゃない」と新しい洋服を見て泣き出す子がいました。保育士が「そうなんだね」と気持ちを聞いてみると、一人の子が「ちまちま(しましま)良かったのかな」と声をかけ「これかな、あれかな」と話が始まります。泣いていた子もいつの間にか会話に参加して笑顔になり、最後は「これにする」と着る服を決めていました。自我の芽生えとともに、言葉にならない様々な気持ちを思い切り表出しながら保育士に受け止めてもらうことで、少しずつ言葉で思いを伝えようとする姿が見られます。最近では友達の姿を見て気持ちに寄り添おうとする姿もあり、温かい心の育ちを感じて嬉しくなります。

追

ちゅうりっぷ組(2歳児)

春頃は散歩に行くたびに「先生こっちだよ～」と保育士に追いかける遊びを楽しんでいました。秋頃には絵本『3びきのこぶた』のこぶた、最近では警官になって「かぎをガチャガチャ」と泥棒を捕まえて牢屋に鍵をかけたり、思い思いの鬼になったりして毎日のように追いかけて遊ぶ姿が繰り返されています。感触遊びでは「混ぜるとどうなるかな」と疑問を抱き、何度も試して遊び、戸外ではダンゴムシやバッタ等を捕まえようとどこまでも探し、追いかけていました。たくさんの楽しみを追い続けた一年間でした。



虫

ほし組(3歳児)

ダンゴムシと青虫の飼育から春が始まりました。「怒ると黄色のツノが出るんだよね」とお腹を触ったり、怒っている友達に「あ、黄色のツノが出そうだよ」と言ってみたりして、クスッと笑い合う場面もありました。青虫が蝶になると、年下のクラスの子と一緒に空に放したり、カブトムシにゼリーをあげたりして世話を続けました。偶然見つけたカマキリには餌として生きている虫が必要で、保育園中の職員も幼児クラスの子どもたちも一緒になって虫を探しました。餌やりや観察を通して、心踊る体験が何度もありました。虫との触れ合いは興味の広がりとなり、周りからも『ほし組といえば虫』と言われるほど、虫を通じて多くの人とつながり、親しみが深まりました。



輪

つき組(4歳児)

皆の顔が見えるよう輪になって話をする『サークルトーク』を取り入れながら、たくさんのお話し合いをしました。大根を収穫した時の話し合いでは二種類の味つけまで絞り込みましたが、一種類には決まりません。多数決だと醤油味ですが、それでは納得出来ないという主張がありました。「それなら どうでしょうか」と投げかけた時、子どもたちから「大根を半分にすれば二つの味に出来る」と意見が出たので栄養士に相談すると、快くOKを貰えました。自分達の願いを叶えるためにどうすれば良いか、いつでも皆で考えてきた一年間でした。年長児クラスでも、どんな結果であっても皆が納得出来るような話し合いを重ねていきます。



勝

おひさま組(5歳児)

大好きなドッジボールは「絶対勝つぞー、エイエイオー」と毎回気合が入り、誰が外野とジャンプボールをするか選ぶことから作戦が始まります。「当たった、外だよ」「当てれば中に入れるよ」とコートの中からも外からも一人ひとりの熱気が伝わってきます。「〇〇ちゃん、こっちにボールちょうだい」という仲間からの声に応えたり、時には「なんでそっちに投げるんだよ」とボールの動きに一喜一憂する姿も見られます。自分だけの喜びではなく『仲間と勝つためには』という思いから力を合わせる大切さに気付きました。勝つ喜びや負ける悔しさをその都度バネにし、挑戦や勝負することを通じて粘り強さを身につけ、底力に結び付いた一年間になりました。

